

不~~便~~益のまとめ

京都先端科学大学 川上浩司

不便なことは避けてばかりではなくて、不便だからこそ得られる益(不利益)があることを知つていると良いですよ、という連載をしてきました。今回が2年間の最終回です。先月までは、個別の事例を取り上げて考察を加えるというスタイルでした。最終回ぐらいは、個別ではなく、全体をまとめるような話をします。

・やつたー、何をしてもいいんだ！
どちらがまず頭に浮かぶかは、生まれた時代に依るという説もあります。純粹客観不便をベースにすると、不利益は前者の「何をしてもいいんだ」と思った人向けだと思います。「何もしなくてよい、何をしても無駄だ」と言わることより、自分の手間をかけ、自分の頭で考えられることが嬉しくて、そこから獲られる「益」を感じられ人です。

ます「不便」とはどういうことでしょ
う?これについて、不利益の研究者達は二
派にわかれます。この連載を書いている私
は、「手間がかかるか、頭を使わねばなら
ぬ」といふ立場で、この連載を書いてい
ます。

ないこと」を不便なことと考えています。当たらずも遠からずだと思いませんか？ ただ、他の研究者の中には、「いや、それに『いやだなー』という感情が伴わねばならない」という人も多いです。

私の不便の定義は、客観的現象として観測できますから、工学系の学者好みです。純粹客観不便とでも名づけましょうか。一方で『いやだな』という感情が伴わねばならないとする定義は、主観付帯不便とでも呼びましょう。どちらも一長一短がありますが、この連載では一貫して純粹客観不便をベースにして話を進めてきました。

ところで、「自由とはなんだ」という、なんだか宗教的な、哲学的な匂いのする問い合わせつながります。さて、皆さんは「あなたは自由です」と言われた時、次のどちらの反応をしますか?

「便利の極み」とすると、そこは「手間がまったくからず頭も使わない」状態として良いでしょう。自由と聞いて「何もしないでいいんだ!」と思う人が希求する状態です。ここで一つ、自由と不便／便利が繋がりました。そして、左に行くにつれて手間をかけ得る余地が増えてきます。これが

程度の差はあれ、「やつてもいいんだ！」と思う人が喜ぶところです。

では、この直線上にいくつかの事例を当てはめてみます。まずは味噌作り。我が家ではいつも味噌をスーパーで買ってきていました。ある年に家内が「手前味噌キット」を買ってきて、自宅で作り始めました。自分で作る手間は楽しいものでした。手間の楽しさは不利益です。

ところが家内は「不便？キットなのに？」というのです。確かに、キットというと便利なものです。現代では麺を売る「もやし屋」など近所にはありません。ですから、味噌を作るのに必要な材料が一揃えになって届くキットは、現代ならではの便利です。味噌を自分で作るという不利益体験をさせてくれる便利グッズの一つが手前味噌キット、ということになります。

今では不可能になつたという意味で、材料を全て自給自足で調達する方法が直線の左端、「つくる」作業がゼロであるスーパー購入方法が右端にプロットされると、手前味噌キットはその間に位置します。

他にも、料理をするというタスクを考えてみると、左から順に自給自足・スーパーで

食材を購入・食材のキット購入・カット済み食材のキット購入・調理済みで後は混ぜるだけのキット購入・CookDo的ラスト一手間キット購入・チンするだけを購入・ケータリング、などのメソッドが直線上に並びます。他のメソッドも、いくつかの組み合わせも、この直線上のどこかに乗るでしょう。そして、人により状況により、料理にかける手間から得られる益のバリエーションが楽しめます。

「不利益を得るための便利」と言えば、山登りの装備もそうです。頂上に行くだけなら他に便利な手段があつたとしても、あって不必要な登頂を楽しむ（益を得る）ためには、安全装備という便利が必要です。

キャンプもそうです。便利の極みの「どこにも行かないこと」と不便の極みの「キャンプできないこと」の間で不利益を得るために、キャンプギアという便利が必要です。

車の変速もそうです。図の右端に位置するオートマよりマニュアルトランスマッシュヨンが不便です。そして、マニュアルという不便から益が得るのには、サクサクとドライブの指示通りに動く装置という便利が需要です。

2年間の連載で紹介してきた事例は、いずれも、「不便の益を得るための便利」を提供してくれるものでした。